

授 業 目 名	解剖学実習Ⅱ	授 業 形 態	演 習
		配 当 学 期	1年（後期）
担 当 教 員 名	池田 卓矢（廣岡 幸峰、平塚 将嗣）	単 位 数	1単位
		時 間 数	30時間
授業概要 学習目標	<p>〔授業概要〕</p> <p>一度失われた機能を改善するためのリハビリテーション訓練を進める時に、日常生活において四肢体幹の動きを考えるその中で、基本的な解剖と生理は欠くことができません。患者の機能改善を考え、もう一度基本に戻って解剖を求めたとき、リハビリテーションとして触診はたいへん重要になります。本授業では、触診の意義、方法について学習をしていきます。</p> <p>〔学習目標〕</p> <p>体表解剖実習：人体を頭頸部、体幹、上肢、下肢に分け、各部の骨格と筋の関係について触察を通して、存在場所、形態、大きさ、作用を確認し、体表から触知できる構造物を実際に触察できる。解剖学実習Ⅱでは、主に骨盤・下肢を中心に知識を深める。</p>		
授 業 回 数	授 業 内 容		
第 1 回	下肢 筋・靭帯 触診 1		
第 2 回	下肢 筋・靭帯 触診 2		
第 3 回	下肢 筋・靭帯 触診 3		
第 4 回	下肢 筋・靭帯 触診 4		
第 5 回	下肢 筋・靭帯 触診 5		
第 6 回	下肢 筋・靭帯 触診 6		
第 7 回	下肢 筋・靭帯 触診 7		
第 8 回	下肢 筋・靭帯 触診 8		
第 9 回	下肢 筋・靭帯 触診 9		
第 10 回	下肢 筋・靭帯 触診 10		
第 11 回	下肢 筋・靭帯 触診 11		
第 12 回	下肢 筋・靭帯 触診 12		
第 13 回	頸部・体幹 筋 触診 1		
第 14 回	頸部・体幹 筋 触診 2		
第 15 回	頸部・体幹 筋 触診 3		
評価方法	触診の確認テスト（実技試験）、単語帳テストを実施し評価する。2つのテストの合格（60%以上）をもって、単位修得を認める。		
教科書 参考図書	〔教科書〕 運動療法のための機能解剖学的 触診技術 改定第2版 上肢・下肢体幹		
履修上の 留意点	実技が主体となるので、触診部位を露出しやすい格好で参加してください。 身体へのトレースを行うので、ホワイトボードマーカーを2～3色、拭き取り用のアルコールシートを準備してください。		
メッセージ	特になし		